

(一般質問)

- 田原 実 1 医師・看護師確保など地域医療の諸課題と糸魚川市の対応について
- (1) 糸魚川圏域の医師・看護師数の現状と課題について伺います。
 - (2) 365日24時間救急医療体制の現状と課題について伺います。
 - (3) 医療の高度化、専門化への対応と課題について伺います。
 - (4) 市民及び医師の高齢化への対応と課題について伺います。
 - (5) こどもの命を守る糸魚川市の取り組みについて伺います。
 - (6) 医療の不足に関する市民からの声への対応について伺います。
 - (7) 豊かな自然環境や北陸新幹線など、糸魚川の地域性を活かした医療体制の充実について伺います。
- 2 市内公共交通の確保と充実及び交通インフラの安全について
- (1) 新幹線、鉄道、バス、タクシーなど市内公共交通の現状と課題について伺います。
 - (2) えちごトキめき鉄道の課題と、新駅「押上駅」設置について伺います。
 - (3) 糸魚川バスの課題と、市民や観光客に便利なダイヤ編成について伺います。
 - (4) 病院、診療所への交通に対する糸魚川市からの支援について伺います。
 - (5) 北陸新幹線糸魚川駅からジオサイトへの2次交通の充実について伺います。
 - (6) 公共交通を利用する学習や社会教育について、糸魚川市の取り組みを伺います。
 - (7) 糸魚川市内の全てのトンネルの耐久性と安全確保について伺います。

- 吉川 慶一 1 まちづくりについて
- (1) 糸魚川の自然観光スポット、おみやげ商品開発、糸魚川のもてなし等、糸魚川の観光素材(米・山菜・えび・かに・酒)の見通し、二度、三度と訪れたいまちづくりについて、具体的な実施計画をお伺いします。
 - (2) 商店街はもちろん、市民と共に観光客誘致を行うためにも、更なる協働が急務と考えられますが、具体的な案及び計画をお聞かせ下さい。
- 2 交流人口の拡大について
- (1) 交流人口の拡大を掲げていますが、具体的にどのようにして拡大をしていくのか、行政のお考えをお伺いします。
 - (2) 豊かな自然を活かし、地域資源を活かした事業とありますが、具体的にどういふことでしょうか。
 - (3) 広大な自然があり、四季を通じて多くの方が来市されていると思いますが、リピーターはどれくらいいるのでしょうか。
- 3 ジオサイトの案内について
- (1) 2009年8月、世界ジオパークに認定され、ジオマスター・ジオ検定

を多くの市民が受講・受験されました。その後、受験者やジオマスターをどのように活用されましたか。

(2) また今後、受験者及びジオマスターをどのように活用する計画でしょうか。

(3) 世界ジオパークの再認定を目指していますが、市民の糸魚川ジオサイトに対する認識が薄いのではないのでしょうか。地域住民の方との密なる話し合いはできていますか。

(4) 市内に道路案内板や、解説板が少ないのではないのでしょうか。

(5) 市内に観光案内に関わる団体はいくつありますか。それらの団体とネットワークを組んでいますか。お伺いします。

4 一般廃棄物最終処分場について

(1) 現在の廃棄物埋立地の対策について計画をお伺いします。

(2) 保有水等の対策をお伺いします。

(3) 長い間埋め立てられた廃棄物をどのように処理するのか、お伺いします。

(4) 地すべり地帯に対する治山対策をどのようにしていくのか、お伺いします。

5 消防団の現況と災害対策について

(1) 糸魚川市消防団員の定数1,190人と実数1,079人で、今後の増減見込みと地域別団員の増減はどうか。更に人口の減少に伴う団員定数の見直しについてお伺いします。

(2) 現在、女性消防団員が活躍中ですが、更なる女性団員増員のお考えはありますか。

(3) 地域防災計画についてお伺いします。過去、糸魚川市は大きな災害に見舞われてきました。災害はいつ発生するかわかりません。発生時のハザードマップが作成されていることと承知していますが、地域住民にどのように周知され訓練されていますか。また、来市中の多くの観光客にどのように周知しているかお伺いします。

(4) 防災安全上から観光客に避難誘導路を明確にすべきと思いますが、行政としてどのようにお考えかお伺いします。

市内の避難誘導案内板設置、非常時の案内人の指定はどうなっていますか。

指定避難場所の対応はできていますか。

地域の防災組織の達成率でどのように生かされているか。また、山間地の組織の育成はどうでしょうか。

自主防災への対応についてお伺いします。

笠原幸江 1 市長公約について

3期目の公約で米田市長は、筆頭に交流人口拡大を掲げ、今後、4年間で

20万人の増加を目標とする数値の明言をされました。勇気ある数値化の決断の背景に平成27年の春の新幹線開業と、糸魚川ジオパークを核としたビジネスチャンスと捉えてのことと存じますが、そのことは市民と行政が総合力でスピードを上げ、取り組まなければなりません。なぜならば、「食べる・観る・体験する（遊ぶ）・泊まる」と滞在型観光ひとつとっても、これからが正念場と考えるからです。行政の動きと市民の感じ方にまだまだ隔たりのあります。市民が日々の生活に豊かさを実感するために、私の提案も含め、以下6項目について具体的に市長に伺います。

- (1) 4年間で20万人の増加目標の分析をどのように捉えているか。
- (2) 観光交流人口の入込数の傾向はどのようになっているか。
- (3) 近隣市町村による（仮称）北アルプス日本海広域観光連携会議の取り組みについて
- (4) 親不知ピアパーク内にある、ふるさと体験館の活用はどのようになっているか。
- (5) 小滝ヒスイ峡周辺整備についての考え方について
- (6) フォッサマグナミュージアムを教育委員会から市長部局へ配置転換できないか。

保 坂 悟 1 保育事業について

+

(1) 保育園の入園について

入園基準を満たしていない方や定員オーバー等で入園を断った方への対応はどのようにしているか。

現行の保育サービスを有効に活用していただくために保育園コンシェルジュ（相談員）の設置はどうか。

利用希望者が多い保育園の定員を増員してはどうか。

(2) 糸魚川市次世代育成支援後期行動計画について

「保育の見直し」について進捗状況はどうか。

策定から丸3年経過したが、新たな見直し項目はあるか。

(3) 森の中で遊ばせて成長させる「森の幼稚園」のような特徴のある「ジオ保育園」を新設してはどうか。

2 交通弱者（買い物弱者）の支援について

(1) お出かけパス券・タクシー券の利用状況と効果はどうか。

(2) コミュニティバスと乗合タクシーの利用状況と効果はどうか。

(3) デマンドバス導入に向けての検討状況はどうか。

(4) 民間と連携し移動販売車を促進すべきと考えます。移動販売業者に補助制度を設けてはどうか。

(5) 一人暮らしや高齢者世帯では、民間の「便利屋さん」が必要になると考えます。利用者もしくは業者に支援制度を設けてはどうか。

- (6) 将来、デマンドバスや買い物支援を円滑にするため、高齢者向けにスマートフォン の普及はどうか。
- (7) 市内のタクシー会社とバス会社を買い取り、ジオ観光と生活福祉と遠距離通学等をサポートできる交通公社を立ち上げてはどうか。
- (8) 各公民館に地域生活支援センターを併設し、高齢者の交通支援や買い物支援ができる拠点にしてはどうか。

3 子育て支援について

(1) 乳幼児の事故防止教育について

チャイルドビジョン（幼児視野体験メガネ）の普及はどうか。
 年齢に応じた事故防止教育のリーフレットの作成はどうか。
 「子育てお役立ちブック」に掲載してはどうか。

(2) 風しん予防接種事業について

糸魚川市の素早い事業実施を高く評価しております。今後、風しんのまん延を防ぐ観点から対象者の拡充をしてはどうか。

(3) 子ども医療費の助成制度拡充について

平成15年の初当選以来、制度の拡充を求め続けてきました。県内自治体の状況から、通院の補助対象を中学校卒業までにすべきと考えますがどうか。

(4) 衆議院で「子どもの貧困対策推進法案」が可決されましたが、日本一の子どもづくりを目指す本市として、「貧困による学力差」や「親から子への貧困の連鎖」に対する取り組みはどうか。

4 特色ある（儲ける）まちづくりについて

(1) 儲ける自治体の取り組みについて

福祉や教育を拡充するために儲ける自治体産業を興すべきと考えます。具体的には、ごみ処理場の広域処理、公立の墓園経営、民間とタイアップした図書館経営、耕作放棄地を活用したバイオエネルギー生産などを研究し導入すべきと考えますがどうか。

(2) 儲ける高齢者グループ作りについて

高齢者による生産・加工・販売ができる体制づくりのために、各地域に加工所と高齢者育成機関を設置すべきと考えますがどうか。

(3) 儲ける観光戦略について

新幹線開通後に糸魚川市として観光客に売り込むものは何か。
 若い女性や小さな子ども向けの戦略はどうか。
 誘客に向けた情報発信戦略はどうか。

渡辺重雄 1 米田市政3期目の基本姿勢と公約について

米田市政3期目に当り、米田市長は「米田徹のお約束」で、30年先も持続可能なまちを目指すとしており、当面する課題の中から3点を掲げ、各ジ

チャンルの政策課題に関しては「さらに前へ！トップスピードGO！」ということでもあります。

今までの2期8年は合併後の調整や不況下であり、なかなか政策の効果が
出にくい時期でもありましたが、3期目は本格的な政策展開による効果を期
待しています。

特に、このところ地方分権改革などにより、地域間競争が激化し各地域に
おける知恵比べの様相を呈しており、政策競争の時代でもあります。

市内では、新幹線開通を間近に控え、期待の一方で不安とあせりとも思え
る動きも見えており、具体的な成果につながる戦略や行動が必要であります。

今までは、総合計画をはじめ各種のプランにおいて、市民とのつながりや
各機関の役割が明示されながら、なかなか成果に結びつかない中で、「チー
ム系魚川」の発足に関しては期待の組織であり、新しい系魚川のスタイルに
成長させてほしいものです。

米田市政3期目のスタートに当り、市政運営に臨む基本姿勢と合わせて約
束として掲げられている3点について、現状の分析や実現への手法などにつ
いて伺います。

(1) 交流人口200万人達成について

現在の交流人口180万人を4年後までに200万人とし、さらに、将
来目標として30年先には交流人口300万人を目指し、人口は現在の
47,000人を維持継続するとしているが、具体的な戦略と手法を伺い
ます。観光入込客は平成13年の298万人をピークに、その後減少が続
き、最近若干回復したものの180万人台であり、定住人口も合併時の約
5万人が46,700人ほどに減少しているが、その原因や影響などの現
状分析をどのように行っているか伺います。

(2) 協働組織「チーム系魚川」と情報の共有による住民参加について

系魚川に関係する全ての団体が主体的に参加する組織の構築は、ほかに
例を見ない素晴らしいものであり、強力なチームになると考えており、早
期の実現を望むとともに活動の内容について伺います。また、情報の共有
に関しては、市民の要求がどこにあるのかを的確に捉えたタイムリーな情
報の提供と行政の説明責任も重要と考えるが、どのように考えているか伺
います。

(3) 職員の意識改革と市民や地域の意識改革について

職員の地域課題に対する積極的な向上心の不足、協働の取り組みが不足
という踏み込んだ指摘で、市長の高い本気度がうかがえるが、職員の高い
本気度につなげるための手法として、今までと違ったどんな方法を考
えているのか伺います。市民と地域の意識改革については、チーム系魚川、住
民参加が動き出すことにより、かなり進むと考えるが改革の具体的な手法
を伺います。

田 中 立 一 1 糸魚川市の定住促進策と交流人口拡大策について

国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来推計人口によれば、およそ30年後の2040年、糸魚川市の人口は約32,300人と発表されました。

これは現在の人口から30%以上の減少となり、新潟県全体の約24%から比べ非常に大きな減少率となります。

高齢人口の比率も県全体より高く、人口減少・流出の対策が求められており、市でも定住促進と交流人口拡大の取り組みを行っていますがその内容について伺います。

(1) 糸魚川市の「婚活」事業について

結婚情報サービス大手と先月提携した目的について

提携内容と提携後の加入状況について

縁結びコーディネーター等既存の事業及び事業者との連携について

(2) 空き家の利活用について

空き家情報提供制度の利用状況について

近年の定住者実績について

(3) ふるさと糸魚川同窓会応援事業の目的と利用状況について

(4) 米田市長の交流人口拡大目標、任期4年で200万人、2040年には300万人を目指す数値の具体的施策と考えについて

(5) 観光振興について

糸魚川には食・ひすい・自然・伝統・文化など観光資源が豊富にあり、それらをどう生かすかが問われます。

企画力、プレゼンテーション能力がますます重要と考えますが、能力開発の取り組みについて

各地で農産物の直売所が観光に大きな役割を果たしています。

地元消費者の購買促進と共に観光客及びドライブ中の人たちをターゲットにした取組強化の考えについて

(6) ジオパークについて

世界認定から4年、ジオパーク効果に対するの評価と今後4年で整備しなければならない課題について

フォッサマグナミュージアムの大規模リフォームを予定していますが、今後の具体的な活用策について

2 公文書と古文書について伺います。

(1) 公文書の管理と市民への公開及び市民の閲覧状況について

(2) 公共施設の耐震化・長寿命化工事で建設当時の設計図や建設経緯などの書面はどのように利用されているか伺います。

(3) 市内の古文書研究はどのようにされ、保管状況はいかがでしょうか。

3 農業について

(1) 天候不順に負けない稲作について

ここ数年、天候不順の影響を受け、収穫量や品質に影響が出ています。

今年も雪解けが遅く、田植え後の降雨量が少ないなど不順な天候が予想されます。

これまでの反省と今年度力をいれている対策について伺います。

(2) 新規就農について

2012年の新潟県新規就農者数は248人で3年ぶりに増加と報道されていますが、糸魚川市の現状はいかがでしょうか。

(3) TPP参加により新潟県産米520億円減少という新潟日報と新潟大学農学部助教による試算が先月示されました。

減少額は米生産額の3割に当たると言われ、当市においても影響は大きいと思われませんが、当市の予想される減少額はいかがでしょうか。

伊藤 文博 1 職員の意識改革について

米田市長は、職員の意識改革を推進することを表明しています。次の点について伺います。

(1) なぜ意識改革が必要だと考えるのか。

(2) どのような意識をどのように変えたいのか。

(3) 意識改革の具体的手法は。

(4) 意識改革によりどのような職員像を目指すのか。

2 市民協働、市民参画の推進について

行財政改革による効率的で有効な施策を執行していくためには、市民参画、市民協働が不可欠です。

産業振興に民間の力が重要なことは勿論ですが、福祉の場面での社会福祉法人との協調政策、ジオパークによる地域活性化・交流人口の拡大での民間力の活用などもますます重要となっています。

しかし、市は民間と協調して施策展開を図っていく立場である反面、民間に対して許認可権者であるという側面を持っています。

また、民間活力を有効に市の発展につなげる形で活かしていくためには、市側がただ期待するだけでなく、有効で具体的な道筋を示して民間が参入しやすい環境を整える必要があります。民間にとっての採算性は死活問題であり、企業は先の見えない投資はできない、市民団体も採算の裏付けのない活動はできないからであります。

どのような場面での市民協働、市民参画を期待し、それをどう実現していく方針なのか具体的に示してください。

3 スポーツ振興から介護予防まで、あらゆる健康づくりに繋がる体育活動の連携について

少年スポーツから中・高校生の部活動、社会体育団体による競技スポーツ、楽しさに重点を置いたニュースポーツ、中高年の健康重視の運動、介護予防、生活面でかつてできたことをもう一度できるようにするための運動など、様々な年代や健康状態、嗜好性に応じたスポーツ、運動の場面があります。

市民から見れば、境目のない活動であり、行政の縦割りは関係がありません。市民の状態に応じた切れ目のない支援策が必要となります。

スポーツ、健康づくりの「民」の場面でのコーディネート役を「官」が務めるわけで、お互いの役割をわきまえた協力体制が必要となります。市の基本的な考え方と具体的な方策について伺います。

新 保 峰 孝 1 介護について

(1) 特別養護老人ホームの増設等、介護施策の充実を図るべきではないか。

特別養護老人ホームの入所希望者と対応はどうか。

特別養護老人ホーム増設計画の現状と今後は。

介護施策の充実をめざす今後の取り組みは。

(2) 介護保険料の軽減を図るべきではないか。

第5期介護保険計画の保険料と施設整備との関係はどうなっているか。

低所得者に対する保険料・利用料の減免を行うべきではないか。

介護保険料大幅引き上げを避けるためにも一般会計からの繰り入れを行うべきではないか。

国に対し国庫負担割合の引き上げを強力に求めるべきではないか。

(3) 健康づくりの推進を図るべきではないか。

高齢化が進んでいる中で、健康づくりの取り組みをどのように強化し進めているか。

介護が必要になった主な原因に対する対応はどうか。

飯田市では市民を胎児期から高齢期までの7段階に分け、市民総健康をめざし取り組んでいるが、当市においてはどうか。

2 子ども医療費助成について

(1) 子ども医療費助成については、対象が入院は高校卒業までとなり大きく進んだが、通院については小学校卒業までと3人以上の家庭では中学校卒業までとなった。通院についても全員を中学校卒業までにした場合、費用はどれくらい増えるか。

(2) 通院についても全員を中学校卒業まで対象とすべきでないか。

(3) 一部負担金をなくすべきではないか。

3 放射能汚泥のセメント処理について

(1) 明星セメント株式会社糸魚川工場及び電気化学工業株式会社青海工場による下水道、上水道の放射能汚泥受け入れ状況、その後の経過はどうか。新潟市、長岡市との上水道放射能汚泥受け入れに関する協定締結後、新発

田市、燕市とも協定を結び、搬入が行われているとのことだが、どういう内容か。

- (2) 放射能汚泥の測定状況、結果、測定箇所についてはどうか。子ども達への影響をどのように考えているか。
- (3) セメント製造プラントでの放射能汚泥処理はやめるべきと考えるが、今後、受け入れは拡大するのか、いつまで続けるのか。受け入れ期間、量についての考えを伺いたい。
- (4) ジオパーク等での交流人口の拡大をめざし施策を進めているが、糸魚川市のイメージ戦略に大きなマイナスになっていると考えるがどうか。

五十嵐 健一郎 1 海の再生と利活用の取り組みについて伺います。

- (1) 海岸侵食対策の促進及び海岸養浜の促進について
- (2) 漁港施設整備の推進及び「つくり・育て・管理する漁業」の推進と「食」の連携について
- (3) エネルギービジョン策定事業のスケジュール及び新エネルギーの積極的導入支援について
- (4) 海底地形図の作成と活用策について
- (5) 長野県との連携強化策及びスポーツ・レジャー交流促進について
- (6) 海洋産業開発関連の人材育成及び専門研究機関等の誘致と連携について
- (7) 県立海洋高校との連携及び海洋丸の利活用について
- (8) 糸魚川海岸と中心市街地活性化との融合策について
- (9) 新しい海とのふれあい構想策定及び実現に向けた取り組みについて

古 畑 浩 一 1 市長マニフェストの実現性と文化施設・体育施設の整備拡充について

- (1) 市長三選出馬に際し、「米田徹のお約束」として示されたマニフェスト。～30年先も持続可能なまちを目指して～としてジオパーク・新幹線開業を軸とした交流人口の増大と定住人口対策、チーム糸魚川の発足、行政改革推進などが数値目標と共に明記されていますがその実現性と行動計画について伺う。
- (2) マニフェストには明記されていない市民文化の育成については、どのようにお考えか。市民会館の耐震化に対してリニューアルか新築か議論が分かれており、改選前からの課題となっている。今後の使用計画にも影響があることから早急に結論を求められている事案についていかがお考えか。
- (3) 体育館、野球場など老朽化や機能低下に対する対応と将来計画について伺う。
- (4) 多種多様な市民要望に対して財源不足を実行不可能の理由に挙げるが、支出を抑え税収を上げる政策についてはどのように推進されるのか。行政改革の推進や豊富な自然を活かした再生エネルギー事業や経済対策を更に

推進すべきと考えるがいかがか。

古川 昇 1 糸魚川市の在宅介護充実について

糸魚川市の介護保険制度は介護給付費の着実な増加と介護保険料の上昇で大変厳しい状況にあります。全国的に見ても今までは高齢化率の高い地方において顕著に現れていたのですが、最近都会にあっても状況は急速に悪化してきたとの報告があり、国の制度維持そのものが危機的段階に近づいてきたと指摘されています。

介護保険制度維持には国の公費負担割合の拡大は譲れない絶対条件です。しかし一方では在宅介護への充実強化を図り、給付費削減の仕組みづくりを確実に整えていく必要があります。介護施策の充実に向けて以下の項目について伺います。

- (1) 在宅介護への環境整備施策の取り組みと現状について
- (2) 安心在宅介護を任せられる介護・看護施策について
- (3) 在宅介護を阻む情勢の捉え方について
- (4) 介護保険制度改定に関する情勢について
- (5) 介護施設における終末期について

2 認知症の安心対策について

65歳以上の高齢者で認知症の人は、推計で15%と厚生労働省研究班が調査した新しい事実が明らかになりました。介護保険利用者を対象にした厚生労働省調査では2012年に305万人が見込まれていましたが、これまでの推計の1.5倍にあたる462万人となっています。増え続ける認知症の人と家族のために何ができるのか、医療・福祉に頼るだけではなく、地域や住民の連携で暮らしを支える仕組みづくりが模索されています。

また、厚生労働省は高齢化で増える認知症の新たな対策をまとめました。症状の初期段階で集中的に在宅での対応を支えるのが柱となっています。精神科病院に入院する患者の急増を防ぐことが狙いです。支援策が整えば退院の可能性は6割に達するとの研究結果もあります。対策を具体化した5か年計画を発表しました。そこで以下の項目について伺います。

- (1) 家族会と市民ボランティア・団体とのネットワークの現状について
- (2) 初期段階における相談対応環境と医療機関との連携について
- (3) 認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）について
- (4) 徘徊対応ネットワークづくりとサポーター研修について

3 集落活性支援事業について

中山間地域では人口減少と高齢化により勢いが失われ、集落の維持も危ぶまれる状況のところもあります。過去の賑わいを取り戻すことはできませんが、現状を把握して一步一步確実に活力を生み出していく地域活動が求められています。

地域交流、移動交通手段確保、買い物、世代間交流など前向きに生活を営んでいくことができる環境整備が必要であると考えます。そこで以下の項目について伺います。

- (1) 中山間地域の将来のあるべき姿について
- (2) 中山間地域集落みまもり隊の役割、目的について
- (3) 民生委員、公民館など他の既存組織との関わりについて

4 平和教育について

68年前の8月6日、9日にアメリカは広島、長崎に原子爆弾を投下しました。広島、長崎の人々や世界には今なお放射線障害に多くの人たちが苦しんでいます。犠牲となって亡くなられた方々は43万人を超えています。再び被爆者を生み出さないと誓い、今全国では中学生を中心として広島原爆をテーマに平和学習が取り組まれています。

2年前の東日本大震災で東京電力福島第一発電所の事故もあり、将来を担う若者たちが過去の歴史に学び、戦争や核兵器・核エネルギー・放射能を改めて自ら問い直しているものと思います。

世界各地で紛争があり幼い子どもを含むたくさんの犠牲者が出ています。今こそ核も戦争もない平和な社会の実現が強く求められています。そこで以下の項目について伺います。

- (1) 昨年の中学生広島派遣の成果とその拡がりについて
- (2) 今年の平和学習の取り組みについて
- (3) 糸魚川独自の平和学習行動の実現について

+

吉岡静夫 1 「米田徹のお約束」という文書

市長選挙告示日14日付けで「米田徹のお約束」なる文書が出ました。

そこで、お伺いします。

- (1) 当該文書、市長として公的に出されたものか。それとも一個人として出されたものか。

2 「施政」への姿勢。「開発は善」か、「経済発展は絶対」か。

「日報抄」(6月5日付け新潟日報)でこうありました。

『「技術の開発は善」という主張の前で、生身の人間の「何だか怖い」という感性は影が薄い。前者が国策なら「反対するのは非国民」とされかねない。2011年にリニア建設を指示した大臣は、「リニアを前に進めることは未来に対する展望を示す」と語った。政治家が明るく語る「未来」は要注意だ。足元の環境を見つめよう。』

次に、いまひとつ。あの「福島原発」に見舞われる前のあるまのメイン通りに掲げられた大看板、そして周りをへいげいするかなのような大スローガン。それが「原子力、明るい未来のエネルギー」でした。

いま、その後処理で苦しみ続けている現実を目の当たりにするにつけ、

「日報抄」のことが重みを増してくるのです。

ところで、JR系魚川駅前に次のような横断幕があります。「ようこそ世界ジオパーク・系魚川ジオパーク・2015(平27)年春 北陸新幹線開通」

当地域が地球上での独特な構造線上にあり、これらを学理的に究めることは大切。また、広域高速交通網の整備を頭から否定するものではありません。

ただ、これだけは訴えさせていたきたい。

ジオパークに限ったことではありません。いま問題に話題になっている放射能物質を含んだ汚泥処理にしても同じこと。「開発は善」「経済発展は絶対」という大義名分や大きな流れの陰で、小さい、少ない、弱い「オカシイ」「でも・・・」の声や動きが消されることのないようにする。このことを「施政」の足元・根っこに置かなければならないと私は確信しております。

そこで、お伺いします。

(1) 市長は、こういった考え方について、これをどう受けとめ、どう考え、どうしようとされますか。

3 「工場建設」の断念・挫折

能生・桂地内で進められていた工場建設計画が断念・挫折の局面を迎えている、という報告が市議会で明らかにされたのが5月15日の全員協議会。マスメディアでも大きく取上げられました。「これを痛い教訓として取り組んでいきたい(市長)」「(5月16日付け「朝日」)、「造成工事を完了させ、今後、市内外の企業誘致に取り組む(市企業支援室)」「(5月17日付け「読売」)との記事もありました。

そこで、お伺いします。

(1) ことここに至った経緯、原因、たださなければならない問題点・内容などを明らかにしていただきたい。

(2) 今後具体的にどう対応しようとしているのか。

(3) 企業誘致取り組みへの基本姿勢や構築上の問題点をどう考え、対応しようとしているか。

4 「柵口温泉センター」の独立しての存続

「柵口温泉センターは、その機能性や住民・市民の信頼感・親密性を考え、独立して存続すべき」との住民からの請願が前期議会で継続審査となりました。私も「足元の健康・福祉の拠点・地域格差是正の拠点として独立しての存続」を訴え続けてまいりました。

そこで、お伺いします。

(1) その後の動きはどうなっているか。

5 系魚川の顔、「JR系魚川駅前アーケード」

「新幹線だ」「交流人口だ」「ジオパークだ」のスローガンやかけ声かけは日に増しむしろ勢いを増しているかの感さえあります。

その一方で、肝心の「駅前アーケード改修」の重圧を身に受け、悩み苦しんでいる関係者がいるという足元があります。

そこで、お伺いします。

- (1) この問題、「公・地域全体」の視点から取り組んでいくべきだと思うがどうか。
- (2) 私が取上げた昨年12月、今年3月各定例会時からの動きはどうなっているか。
- (3) これからの動き・見通しはどうなっているか。

6 「姫川病院」

私は、「施政の基本は弱者対応のあり方にあるべき」と強く訴え続けてきました。「姫川病院」問題はそれらのモデルケースのひとつです。

4月18日には「損害賠償請求訴訟」についての報告チラシも市民の手に渡りました。

この問題、足元での「弱者生みっ放し」と後々言われないようにしなければならぬと考え、その旨訴え続けております。

そこで、お伺いします。

- (1) 現在、どのような動きがあり、市としてどう対応しているか。
- (2) 対地主問題、建物対応、施設再生活用などの諸問題をどうとらえ、どう対応しているか。
- (3) 市自体、同病院に対し、6億円を超える市費を投入し続けてきた。このことをどう位置づけ、どう対応しようとしているか。

+